

このコーナーでは職員の趣味や特技を紹介します。今号は患者支援・福祉担当病院長補佐に寄稿いただきました。

これが趣味ですと、胸を張って言えるか分かりませんが、好きなことは「ゴルフ」です。50の手習いで始めました。きっかけは、東京大学高齢社会研究機構教授の飯島勝矢先生による「フレイル(虚弱)は50代が決め手」という講演を聞いてからです。フレイルを予防するには、遅くとも50代から運動習慣を身に着け、筋肉をできるだけ貯めておく、というものでした。それまで、定期的な運動をしてこなかった私にとって、ある意味衝撃的なエビデンスでした。仕事上、時間が不規則なため、定期的にジムに通うというのもむずかしいので、一人で練習できるスポーツは何かと考え抜いた末、始めた訳です。

すでに3年が経ち、平均スコアは人並み程度に近づき、ようやくゴルフ本来の楽しさが分かってきたような気がしています。ゴルフというのは、よく人生に例えられるのですが、コースに出た18ホールは、ほんとに山あり谷ありで、よし、いける！と思った瞬間に、池ボチャやOBといわれるコース外に打ったりと。でも、それに腐らず、楽しんでると、また人生最高のショットが生まれたりもします。人の喜怒哀楽が自ずと出てしまうスポーツで、自分の弱さ強さに向き合うということに関しては、自己分析の場にもなります。また、成した結果に対し、自分が責任を取るスポーツなので、相手が強すぎたという言い訳ができない点も好きな所です。結局のところ、すべては自分次第だということです。

喧騒から離れた場所で、無心にボールを打ち、そのボールをカップに入れる、そして、合計何打で入れたのかを競うそれだけのスポーツです。始めてから、体力面だけでなく精神的にも随分健康になったと感じています。もちろん筋量も増えました。ということで、今後の夢は「書く」というスキルを活かし、ゴルフにまつわる著作に挑戦したいと考えています。タイトルはすでに決めていて「ライフシフト・ゴルフ」です。これって大学の業績になるんでしょうか(笑) 人生100年時代を迎え、様々な人生の歩み方があるように、いつからだってゴルフを楽しみ、また年代を超えて喜びを共有できる仲間ができることを知ってもらいたい。そして、ゴルフがフレイル予防になることを自身もって証明したいと願っています。

患者支援・社会福祉担当病院長補佐 白山 靖彦



左から飯島勝矢先生、永廣信治先生、稲次正敬先生、白山 靖彦先生



ゴルフ仲間たち



たまには、「ついで」にゴルフも

このコーナーでは、病院でとりくんでいる様々な事業を紹介します。

全身麻酔時のマウスプロテクタが保険適用になりました！

全身麻酔時の気管挿管に伴って、稀に歯牙破折や脱落等のインシデントが生じることがあります。また、その他に器具やチューブによって口腔粘膜を傷つけることがあります。奈良県立医科大学の研究グループによると、気管挿管による全身麻酔を施行した手術の2%に歯牙損傷があり、0.4%が明らかに挿管操作による損傷であったと報告しています。

これらのインシデントを防ぐには、あらかじめマウスプロテクタ(図1)を作製しておき、手術時に装着してから気管挿管を行う方法が有効です(図2)。このマウスプロテクタは約3mmの厚みで軟らかな素材でできており歯列にフィットしているため、歯牙を固定し、急激な力には緩衝材の役割を果たし、歯牙の破折を防ぐことができます。

また、マウスプロテクタはH30年4月1日より保健収載されました。歯科外来において新患か再来患者かによって料金は少し異なりますが、新規で3割負担の患者さんで3,320円となります。以前に比べ負担は少なくなり、歯牙を守ることに有効ですので、歯科外来の先生方から歯科外来へ紹介をお願いします。

【適応症】

1. 上顎前歯が残存している方。
2. 前歯にインプラント治療がある方。
3. セラミックで治療している方。

【歯科外来での説明】

上顎前歯が残存している患者さんに気管挿管時、稀に歯牙破折することがあることを説明してマウスプロテクタを希望された場合、依頼箋とともに歯科外来口腔管理センター(Ｌブロック受付)にご紹介下さい。詳細な診断は歯科で行います。

【依頼箋】

電子カルテ上にありますので、手術予定日を入力し印刷して下さい。

【製作日数】

マウスプロテクタは患者さんの歯型に合わせたオーダーメイドで作製しますので1～2週間を必要とします。これより短い場合にはご相談下さい。期間が長いのは問題ありません。

予約は必要ありません。

【歯科での治療時間】

診断、説明、歯の型取りに概ね30分ほどの時間を要しますので、あらかじめ患者さんにご説明下さい。(待ち時間は含みません。)

【受取日】

入院後、手術の前日までに患者さんに歯科外来を受診して頂きます。そのとき、簡単な調整が必要な場合があります。

ご理解とご協力をお願いします。

病院長特別補佐 清水 裕次

図1 マウスプロテクタ



図2 口腔内装着



NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どどん病院総務課広報・企画係(bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp)までお寄せください。また、「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案お待ちしております。





院内阿波踊りを開催しました。

8月10日、外来診療棟1階のアメニティテラスにおいて、毎年恒例の院内阿波踊りが開催されました。栄養学連の若さ溢れる力強い踊りや、あゆみの森保育園の園児らのかわいらしい阿波踊りが披露されました。事務部有志の篠笛により「崖ノ上のポニョ」が演奏されると徳島大学マスコットキャラクター「とくぼん」もスペシャルゲストで参加し、当日は大いに賑わいました。



←
とくぼん

病院新採用職員の紹介

産科婦人科
祖川英至医員

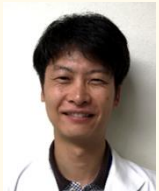


平成30年4月より徳島大学病院産科婦人科の医員としてお世話になっております祖川英至と申します。平成22年に順天堂大学を卒業し、順天堂医院で初期研修を行いました。その後、徳島大学産科婦人科へ入局、大学での産婦人科研修後に徳島赤十字病院、吉野川医療センター勤務を経て、本年度より再び大学病院でお世話になっています。現在は、サブスペシャリティーとして周産期医療を勉強しています。また、大学院4年生ということもあり、学位取得を直近の目標としています。

趣味は野球と釣りで、以前はルアーフィッシングをしていましたが、最近は磯釣りや鮎釣りをしています。大学勤務で忙しく、正直ほとんど行くことができない状況ですが、どこかで時間を作って行きたいです。

多々至らぬ点ではありますが、何卒宜しくお願い致します。

整形外科
土岐俊一医員



平成30年度新規採用となりました、整形外科の土岐俊一と申します。新規とは申しまでも、平成22年度に1年当院での勤務がありますので、久しぶりに採用して頂いたということになります。私の経歴は少々異例で、日本大学医学部卒業後、東京の災害医療センターで初期研修を行った後、徳島大学整形外科に入局しました。四国内の関連病院をいくつか勤務させて頂き、平成28年度から国内留学として東京、国立がん研究センター中央病院に勤めておりました。この度2年ぶりの四国、8年ぶりの徳大復帰ということで、とても気合が入っております。整形外科医ですが、専門分野は腫瘍で、現在先端酵素研ゲノム制御分野の研究室で基礎研究に励んでおります。

将来的に臨床の場に出る機会が増えていくと思いますが、患者様と病院スタッフの皆様のお力になれるよう、また徳島の医療の発展に貢献できるよう精一杯頑張りたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

卒後臨床研修センター
藤川マミ子研修医



本年度より徳島大学病院で歯科研修医としてお世話になることになりました、藤川マミ子と申します。現在私は、むし歯や歯周病の治療を専門とする保存科と、被せ物や入れ歯を専門とする補綴科の2つの科を回るコースで、指導医の先生の下、幅広く様々なことにチャレンジさせてもらい、充実した研修医生活を過ごしています。

休日はショッピングに出かけたり、最近は研修医仲間とゴルフを始めてみたりして、オンオフを切り替えて楽しんでいます。今年度の目標としては、一年間の研修医生活の中で基本的な診療手技を身につけたいと思っています。

まだまだ未熟者ですが、毎日の学びの機会を大切に、一生懸命頑張りたいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

看護部東病棟5階
松田利奈子看護師



東病棟5階脳神経外科・神経内科病棟に配属になりました、松田利奈子と申します。脳神経外科・神経内科病棟は、意識レベルが低下していたり、麻痺があったりなどADL介助が必要な患者さんも多く、個々の患者さんに対しての細やかな看護が必要であると実感しています。日々の業務の中で、自分の実力不足を痛感し悩むこともありますが、先輩方に優しく指導していただきながら頑張っています。

休日は、ランニングをしたり、友人との食事やおしゃべりを楽しんだりしています。冬は県外に行き、スノーボードをすることでリフレッシュしています。

これからの目標は、安全な医療・看護を提供するために、患者さんに信頼され、患者さんやそのご家族に寄り添うことができる看護師になることです。また、全ての医療行為・看護ケアには意味があることを念頭に置き、「何故そうするのか」を考えて、患者さんのことを第一に考えた看護を提供していきたいと考えています。

診療支援部臨床検査技術部門
山川真由美臨床検査技師



今年度から診療支援部 臨床検査技術部門 臨床検査技師として、病理部に配属されました山川真由美と申します。病理部では病理組織診断、細胞診断、術中迅速診断が主な業務です。私は、免疫染色病理標本作製と細胞診業務を担当しております。4月の当初は、仕事を覚える事だけで精一杯でしたが、スタッフの皆さんに指導していただきながら、日々努めています。

休日にはカフェへ行ったりしています。また、何か趣味を始めようと思い、月に数回バイオリン教室に通っています。大学病院という高度医療を提供するスタッフの一員として、幅広い知識と技術を持った臨床検査技師に近づけるよう一生懸命頑張りたいと思います。